主 題：神から与えられる希望

聖書箇所：ローマ人への手紙 5章1—5節

先週、先々週、私たちはアブラハムを通して、神に喜ばれるために信仰が必要であると学んできました。イエス・キリストを信じ受け入れ、従ってゆくこと、それが神に喜ばれることです。そして、私たちは神の祝福を受けて歩んでゆけるのです。この神の祝福をしっかりと覚えるようにとパウロは繰り返し私たちに教えています。救われた者に与えられる神の祝福のすばらしさ、それをクリスチャンは忘れてはいけないのです。どんな時もこの“救われた喜び”を失わないようにといます。私たちはともすればこの地上での歩みに疲れて、ああ、もう早く天に行きたいと願うことがあります。けれども、私たちはこの地上にあっても天国民としての祝福をもって生きて行けるのです。それには、この救いのすばらしさをいつも覚えることです。そして、この救いは永遠のものだと教えられています。

ローマ 5章1—11節には五つの祝福を見ることができます。今週と来週、それを学んでゆきましょう。今日の箇所5:1-5から見てゆきましょう。

☆神が与えてくださる祝福

1. 神との平和 1節

「ですから、信仰によって義と認められた私たちは、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています。」。救われたことによって神と新しい関係が与えられました。神との和解が成されたのです。救われる前の私たちの状態はどうだったでしょう？ エペソ2:1—3を見ましょう。「あなたがたは自分の罪過と罪との中に死んでいた者であって、そのころは、それらの罪の中にあつてこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者として今も不従順の子らの中に働いている霊に従って、歩んでいました。私たちもみな、かつては不従順の子らの中にあつて、自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行ない、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。」と。(1)自分の罪過と罪との中に死んでいた者、この罪過、罪というのは、真理からはずれる、的をはずす、誤ったこと、正しい道から迷い出る、という意味で、神の規準に達していない汚れた者、神の真理からはずれていたのです。自分の心・思いを自分で変えることはなかなかできません。私たちは神に逆らった者だったのです。

そして、(2)不従順の子らの中に働いている霊に従って歩んでいた、サタンに仕えていたのです。今もこのような悪霊の働きはみられますが、これは昔からあったことです。ヨハネ8:44「あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者であって、あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと願っているのです。悪魔は初めから人殺しであり、真理に立つてはいません。彼のうちには真理がないからです。彼が偽りを言うときは、自分にふさわしい話し方をしているのです。なぜなら彼は偽り者であり、また偽りの父であるからです。」。(3)何の望みもなかったのです。エペソ2:12「そのころのあなたがたは、キリストから離れ、イスラエルの国から除外され、約束の契約については外国人であり、この世にあつて望みもなく、神もない人たちでした。」とあるとおりです。

平和の神が私の神となったのです。神は「わたしの平安をあなたに与える」といってくださるのです。神と和解するというすばらしい祝福が与えられたのです。旧約のエレミヤ書6章、8章には、民は平安がないのに、「平安だ、平安だ」と言っている、と書かれています。本当の平安は決して揺らぐことのないものです。それは神が与えてくださる平安だからです。

2. 神との交わり 2節

「またキリストによって、いま私たちの立っているこの恵みの信仰によって導き入れられた私たちは、」と、救われた私たちは恵みのうちに入れられたというのです。それは、永遠に安全な場所に置かれているということです。「導き入れられた」とは、接近する、近寄る、連れてくる、誰かの前に紹介する、という意味です。神に近づくことを赦された、祝福の中に入れられたのです。いつでも、どんなときでも神の前に立つことができるようにしてくださったのです。汚れた私たちはきよい神の前に立つことができないはずでしたが、恵みによって可能としてくださったのです。イエスさまが私を神に紹介してくださったのです。全能なる神の前に自由に出てゆく特権が与えられたのです。ですから、私たちはこの神と交わる時間を大切にせずにはいけません。いろいろな働きがあつたとしても、神に向って静まる時が必要です。

3. 神からの希望が与えられた。 2b-5 節

「神の栄光を望んで大いに喜んでいます。」と、この「喜んでいる」とは「最高の喜び」ということです。勝利の喜び、その確信、また、誇りという意味もあります。勝ち誇ることです。神の栄光にあずかることの希望です。それは、キリストが再び来られることの希望です。I コリント 15: 51, 52「私たちはみな眠ってしまうのではなく、みな変えられるのです。終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちにです。」、また、ピリピ 3: 20, 21 には「けれども、私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主としておいでになるのを、私たちは待ち望んでいます。キリストは、万物をご自身に従わせることのできる御力によって、私たちの卑しいからだを、ご自身の栄光のからだと同じ姿に変えてくださるのです。」とあります。そして、II コリント 3: 18「私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。」と、これが私たちの希望です。

「そればかりではなく、患難さえも喜んでいます。それは、患難が忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと知っているからです。この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。」

また、今この地上にあつての患難をも喜びとする、といます。この「喜び」も 2 節の「喜んでいます」と同じ、最上の喜びです。患難は尋常な苦しみではありません。オリーブの実を搾って、搾り尽くすような極限までの苦しみであっても、喜ぶというのです。II コリント 11: 24 から、パウロが経験した数々の患難が書かれています。「ユダヤ人から三十九のむちを受けたことが五度、むちで打たれたことが三度、石で打たれたことが一度、難船したことが三度あり、一昼夜、海上を漂ったこともあります。幾度も旅をし、川の難、盗賊の難、同国民から受ける難、異邦人から受ける難、都市の難、荒野の難、海上の難、にせ兄弟の難に会い、労し苦しみ、たびたび眠られぬ夜を過ごし、飢え渴き、しばしば食べ物もなく、寒さに凍え、裸でいたこともありました。このような外から来ることのほかに、日々私に押しかかるすべての教会への心づかいがあります。」。しかし、パウロはこの患難を誇るというのです。また、パウロは自分自身の肉体の弱さも覚えていました。一番苦しかったのは、兄弟姉妹のそむき、反発であったでしょう。にせ教師が彼らを惑わし、パウロから離れて行ったのです。

「患難が忍耐を生み出す」といいます。それは、パウロが困難の中で神を見上げることをしたからです。そして、この忍耐が「練られた品性を生み出す」のです。「練られた」とは、試験ずみのということで、精製されて純度が増すことです。「知っている」はただ頭でわかっているだけでなく、経験を通して知ることです。苦しみの目的、苦しみがもたらすものを知っていた、というのです。どのように神の栄光が現わされるのか期待するのです。

患難は神からのプレゼントです。私たちはそこに神の力を見るからです。これをもう少し詳しく見てゆきましょう。

(1) II コリント 12: 10「ですから、私は、キリストのために、弱さ、侮辱、苦痛、迫害、困難に甘んじています。なぜなら、私が弱いときにこそ、私は強いからです。」

(2) II コリント 12: 9「しかし、主は、「わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現われるからである。」と言われたのです。ですから、私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。

(3) II コリント 1: 4「神は、どのような苦しみのときにも、私たちを慰めてくださいます。こうして、私たちも、自分自身が神から受ける慰めによって、どのような苦しみの中にいる人をも慰めることができるのです。」

(4) II コリント 12: 7「また、その啓示があまりにもすばらしいからです。そのために私は、高ぶることのないようにと、肉体に一つのとげを与えられました。それは私が高ぶることのないように、私を打つための、サタンの使いです。」

「この希望は失望に終わることがありません。」といます。これは、「辱めを受けることがない」という意味です。神は私たちに今日歩んで行く力と、確信を与えてくださるのです。